

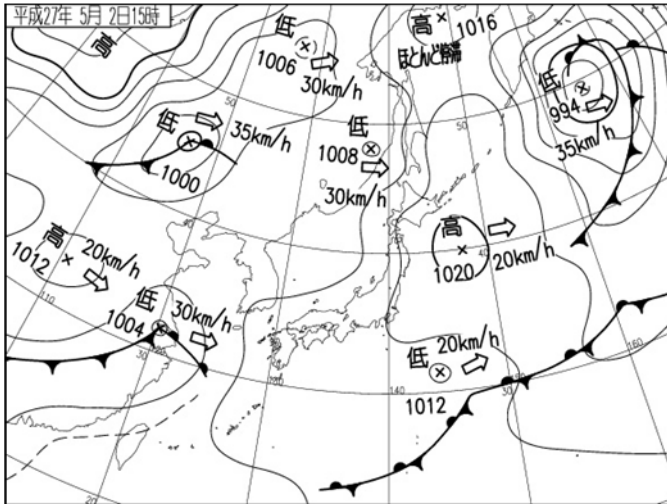
## 「自転車でゆく上高地(6) 梓川と穂高」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



いよいよ上高地の核心部までやってきた。ここまで来たら、穂高連峰のすばらしい景観を見なければ意味がない。晴れることが確実な日を選んで来るのが、上高地観光の大切なポイントだ。

私が行った5月2日の午後は、移動性高気圧が東日本全体を覆い、前線は南下。天気は崩れる要素はまったくなかった。(東京は非常に暑かったはずである)しかし西から前線と低気圧が近づき、翌日(5月3日)の夕方には天気が崩れそうだったので、2日に慌てて出かけることにしたのだ。



「5月2日午後の天気図」 移動性高気圧のおかげ



「河童橋に行った証拠写真」 五千尺ホテルのライブカメラ。橋脚のところで絵を描いているのが私。

この判断は正解で、2日午後の上高地は、完全な快晴。風もほとんどなく、穂高連峰が実に美しく見えた。

わざわざ午後に上高地に来たのは、夕暮れの穂高連峰を見たかったからだ。宿泊予約はなかったので、私は夕方までここでゆっくり過ごすことにした。

上高地のシンボルといえば、梓川(あずさがわ)と河童橋である。中央線の特急列車の愛称にもなっている。特に今の時期は穂高連峰の雪どけ水を集めて水量が多く、実に滾滾と流れている。近景に新緑の白樺、中景に雪どけの梓川、遠景に残雪の穂高・・・日本の風景で、これほど均整のとれたものも稀だろう。写真にも絵にも、誠にすばらしい構図である。嬉しいことに、河畔にはベンチとテーブルがあり、「どうぞここでゆっくり描いていってください。」と言わんばかりの設えであった。



「梓川と穂高連峰」 2015, -5, -2 C. Tanaka  
水彩・はがきサイズ 制作時間; 約30分